

【UHC フォーラム 2017 サイドイベント】

Health Systems Resilience against Public Health Emergencies and Roles of Regional Laboratory Network; Efforts in Africa

国際協力機構（JICA）は、12月15日、東京プリンスホテルにおいて健康危機に対応する保健システム強化と地域ラボネットワーク形成をテーマにサイドイベントを開催しました。WHO アフリカ地域事務局（AFRO）、ガーナヘルスサービス（GHS）、ナイジェリア疾病管理センター（ナイジェリア CDC）、アフリカ疾病予防管理センター（アフリカ CDC）、アメリカ疾病予防管理センター（米国 CDC）、アメリカ合衆国国際開発庁（USAID）からパネリストが登壇し、最終日の夕刻の開催にも関わらず 30 名を超える関係者が参加しました。パネルセッション後にはアフリカ CDC と JICA の協力趣意書の署名式を行い、アフリカにおける UHC 促進に貢献するため、相互連携を強化していくことを表明しました。

感染症アウトブレイクのような公衆衛生上の緊急事態においても、基本的な医療サービスが提供できるよう、各国は強固な保健システムを有する必要があります。UHC は本来各国の状況に合わせて推進されるものですが、近年の感染症伝播の特性を考慮すると、こうした健康危機への対応には国を越えた地域的な取り組みが重要となります。2014 年のエボラウイルスのアウトブレイク以降、地域連携の重要性が再確認されており、アフリカでは既存の WHO のラボネットワークや新規に形成されたアフリカ CDC ラボ・サーベイランスネットワークが、人材育成、研究開発や手技の標準化、知見の共有などで連携しています。こうした中、本セッションではアフリカにおいて国レベル、地域レベルでどのような健康危機への取り組みがなされているかを紹介し、地域あるいは世界的な健康危機への備え・対応（具体的には、ラボ・サーベイランスネットワーク形成など）が各国の UHC 達成にどのように貢献できるかを考察しました。

冒頭、JICA 人間開発部熊谷晃子部長が開会の挨拶を行い、エボラ以降健康危機対応における地域レベル、グローバルレベルでの取り組みの重要性が認識されており、本セッションで活発な議論がなされるよう期待を述べました。

パネリストの発表では、まず AFRO 保健システム・サービスユニット長のドヴロ氏が保健システムの強靱性の大切さに触れ、AFRO が主催したアフリカ地域会合やアフリカ CDC との連携などの活動を紹介し、地域への関与を強化していると話しました。続いて各国での取り組み例として、GHS 総裁ンシアアサレ氏からガーナにおける感染症サーベイランスについて紹介がありました。ガーナではコミュニティを巻き込んだサーベイランスを行っており、その成果として感染症の流行をいち早く探知した成功体験が共有されました。次に、ナイジェリア CDC のイヘクウェズ所長が同センターの活動を紹介し、これまで感染症対策は疾患毎のプログラムにより断片化していたが、最近では保健システムの強靱性の重要性が見

直されシステム強化を通じた UHC 達成への努力も始まっていると話しました。また診断へのアクセス改善に付随する新たな課題として検体管理や搬送の問題をあげ、こうした課題の解決に向け、ネットワーク化された公衆衛生ラボが貢献することに期待を覗かせました。続いて登壇したンケンガソン氏は、2017年に新しく創設されたアフリカ CDC の所長として、5つの地域連携センターと各加盟国での国内公衆衛生機関整備への支援を紹介し、こうした機関と地域の中核ラボをリンクすることで、広域をカバーしニーズに応じていくと展望を述べました。

アフリカ CDC 創設や保健システム強化を支援している立場から、米国 CDC のシニアポリシーアドバイザー、シモンズ氏と USAID グローバルヘルス局のスウィン氏からも発表があり、シモンズ氏は米国のグローバルな取り組みとして、GHSA（Global Health Security Agenda）を通じたアクションパッケージの支援や国際的な健康危機管理体制の評価システムを通じた支援を紹介しました。また、健康危機に備えることで保健システムの機能不全を回避でき、公衆衛生上のアプローチが公平性を促進することから、こうした健康危機に対する取り組みは UHC を推進していると話しました。USAID のスウィン氏は USAID のアプローチの特徴として、人と動物の両方の観点から感染症対策にアプローチするワンヘルスの考え方を紹介し、新しい IT 技術の活用も検討しながら、多方面に渡るイノベーティブな連携を検討していると締めくくりました。



参加者からの質問に答えるパネリストのみなさん

一連の発表の後、発表者が参加者からの質疑に応える場では、ナイジェリアで取り組まれている疾患別プログラムの統合や、健康危機の緊急時体制である EOC（Emergency operations center）についての質問があり、活発な議論が交わされました。

パネルセッションの後、アフリカ CDC と JICA の感染症対策分野での連携促進を目的とした協力趣意書の署名式が行われました。戸田 JICA 上級審議役は挨拶で「アフリカの強靭性はグローバルな強靭性、人間の安全保障に貢献するもの」として、アフリカのオーナーシップを称えました。2 名のアフリカ CDC ボードメンバー同席の下、ンケンガソン所長と戸田上級審議役が協力趣意書に署名を行いました。



協力趣意書に署名するンケンガソン所長と戸田上級審議役

■本イベント登壇者

【発表者】

- ・デラニョ・ドヴロ WHO アフリカ地域事務局保健システム・サービスユニット長
- ・アンソニー・ンシアアサレ ガーナヘルスサービス総裁
- ・チクエ・イヘクウェズ ナイジェリア CDC 所長
- ・ジョン・ンケンガソン アフリカ CDC 所長
- ・ロバート・ジェームズ・シモンズ 米国 CDC シニアポリシーアドバイザー
- ・アイ・アイ・スウィン USAID グローバルヘルス局スペシャルアドバイザー

【司会】

瀧澤郁雄 JICA 人間開発部次長

【開会挨拶】

熊谷晃子 JICA 人間開発部部長 （開会挨拶）

【署名者】

ジョン・ンケンガソン アフリカ CDC 所長

戸田隆夫 JICA 上級審議役